

令和元年度 第3回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の概要

○日 時 令和元年12月2日（月）午前10時00分～11時22分

○場 所 能代市役所 新庁舎3階 会議室9・10

○委員長及び副委員長の選任

委員長 山内 繁委員（秋田県立大学木材高度加工研究所 教授 兼 能代市総合計画市民協働会議 委員長）

副委員長 能登祐子委員（能代市自治会連合協議会 会長）

○案 件

・各種アンケート調査のクロス集計について

【主な意見と対応】

意 見 等	対 応
能代市と同規模の市のうち、類似したアンケートを実施した所と比較する予定はあるか。	平成27年に実施した総合戦略のアンケートをもとに、全国の各市町村のアンケートを参考にして、設問構成を決めており、単純には比較できないと思われる。ただし、国などでは、様々なアンケートを実施していることから、参考できる部分があるか調べたい。
いろいろなベクトル、切り口から集計していただきありがたい。クロス集計により分かった点などを、箇条書き等にしてほしい。	委員からの御意見も含め、クロス集計により浮かび上がった傾向についてまとめたものを配布したい。

・第2期能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に向けた各団体等の取組状況や意見・提言について

（説明：能代地区高校校長会 山田委員）

能代地区の高校では、各高校で課題研究発表を行っている。従来は工業・農業・商業・理数科といった専門学科における課題研究発表である。普通科をメインとしている能代高校では学校独自の取組として「New Will Project（探究活動）」を実施して3年目である。

キャリア教育として行っていた「Will Project」が平成29年、30年に県の探究活

動等実践モデル校事業に指定されたことで、内容を探究活動に切り替えて行っている。その中で、1年生は「グループ探究活動」を行っている。「地域」を意識し、あきた未来総合戦略、能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略を参考に5領域（グリーン、ツーリズム、アグリ、ライフ、ヘルス）を設定している。高校生の視点から能代山本地域が抱える今日的な課題、これを未来に向けた戦略を提言しようというものである。

令和4年度から実施される新学習指導要領で「総合的な探究の時間」が設定されることになっており、現在は移行期間であるが、高校1年生から実施している。今後は、各高校の生徒による探究活動が活発に行われていく。

能代高校の「New Will Project（探究活動）」は「外部機関」である県内の公立大学、能代市役所、NPO法人などと連携しながら、実現可能で持続可能な取組の提言ができるよう、探究活動を行っている。

社会人になっても主体的な学びと様々な提言ができるよう経験を積ませたく、学校以外での発表の場が設けられないか考えている。12月18日に学校で1年生のグループ探究の発表会を行い、来年1月22日には、2年生の個人探究と合わせ、優秀グループの発表会を予定している。

（説明：秋田銀行能代支店 中山委員）

働く場の確保ということで、これまでは誘致企業を一番に考えてきたと思う。実際に見てきたし、それが早い方法かなとも思っている。

ただ、県外の例だが、1,000人規模の企業が誘致された時、労働力の取り合いが始まったことがあった。働く側からすれば、処遇の向上、賃金の向上で良いことかもしれないが、一方で、事業者としては、賃金の上昇により収益環境の悪化を招いてしまう。働く人が減少してきている状況で、企業を誘致すればいいということだけではなくなってきた。

どんな方々に働いてもらったらいいいのか、働く人の目線、視点でどんな企業を、とといったことも合わせて考えていければと思っている。

また、能代で働きたいという皆さん、特に高校生に対するアプローチ、企業の紹介だとか、そういったアプローチはすごく行われているが、それとは別に、1回市外に出ていった方をどんなアプローチで帰ってきてもらうのか、そういった視点も必要なのではないか。

資料2-2は秋田市での取組である。「家族で考える『地元就職』セミナー」で、対象は県内外で就学、就労している方を子に持つ親御さん等、県内で就学中の高校生、大学生、その他秋田での就職を考えているかた、家族での参加も大歓迎です。

内容は「あきた就職ナビの活用方法」「秋田の就職事情」「ライフプランセミナー」では、就職時に気になるお金のことです。初任給は、東京と比べて秋田は安いことも

あるかと思う。では、可処分所得で比べたら、というような話をしていけたら、面白い話になるのではないか。「業界を知ろう！」では企業紹介を行い、最後に「なんでも相談会」を行う。このようなことを、秋田市だけではなく、能代市でもやれないだろうか。

これからは人を連れてくる企業誘致も考えていかなければいけない。地元で働きたい子どもたち、大学生、一度社会に出た 30 代前の方に対するアプローチ、帰ってきてほしい親御さんに呼びかけ、出ていってしまった方を帰ってこさせる、こういうこともぜひ考えていきたい。この会でそういう話を広げていけたらと思う。

(説明：能代市総合計画市民協働会議 山内委員長)

第 2 次能代市総合計画は、市民協働会議での検討を経て、平成 29 年度に策定されたが、今年度はその後の経緯を踏まえて政策の評価を行うとともに、改善策、強化策が必要であると考えられる分野を絞り込み、そこを集中的に協議した。その結果として、11 月 6 日に市長に渡した「まちづくり提案書」が資料 2-3 になる。

5 ページ目、政策 (1) 地域や社会で支える子ども・子育て。提案項目 1 は「婚姻数を増やすための徹底した取組」。適齢期の男女が直接接する機会の創出を市が積極的に増やしていく、支援していく必要があるということを提言した。

6 ページ目、提案項目 2 「市民全体で子育てを応援」。これは近年、社会問題となっている「育児放棄」「虐待」をなくして、さらに男性の積極的な育児参加を促す必要がある。そして、そのためには子育てが楽しいと感じるまちにしなければならない。また、親だけではなく、地域全体が、子育てを支援できるようになる必要がある。提案内容は、企業、福祉団体が家庭教育のサポートができるよう市が支援すること、男性向けの育児講座を充実させることである。

7 ページ目、提案項目 3 「子育ての不安解消に向けた取組」は、子育てを相談できる世代が近くにいないことから、子育てする親の精神的負担が大きくなっている。親の精神的不安を軽くするため、具体策として、子育てしている人たちと同じ目線で悩みを話し合える場を作っていくことが提案された。これは、「こうしなさい」と一方的に教えるのではなく、あくまでも悩みを聞いて、話し合う場をつくることである。

【主な意見と対応】

意見等	対応
能代高校の探究活動の発表を聞く場はないか。	今後、戦略会議の中で発表することができないか、検討したい。
何が良い、悪いではなく、高校生の意見	様々な分析をして、高校生に対する

<p>も大事だと思う。高校生にもしてもらわなければならない。大学生も大事である。外に出て行った方にも、帰ってきてもらう。そのためには何をやらなければならないか。根本的なことを考えずに、今のような誰かが何かをやればいいのか、市で支援したらいいのか、いろいろな話をしたところで、一体どうやるのかと思う。もっと我々が大人として考え、物事が1つ前に展開できる感じにしていかななくてはならないのではないか。</p>	<p>アプローチは浸透してきていると思う。ただ、大学生に対するアプローチについては、これまでどのくらいできていたのか、疑問に思うところもある。</p> <p>今後、大学生との意見交換を予定している。今後の動きに繋がるような、何か取り組みができないか模索したい。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------